



さと山は光と風のハーモニー



ひので野鳥の森自然公園管理棟

馬頭観音（宮本古道）

東雲山荘（1937完成）

ひので野鳥の森自然公園は日の出町の東端に位置し、かつての里山風景が広がっています。ここに2本の古道、尾根道を進む宮本古道と沢沿いを進む谷ノ入り古道があり江戸時代から大正時代頃に利用されたと思われる交易路跡が残ります。左上は宮本古道の尾根に近いところにある安永3年（1775）の文字が見られる馬頭観音です。尾根道を西に進んで行くと日の出山に至ります。

# 「日の出アルプス」

日の出町ハイキングガイドの会会長 石川 剛

野鳥の森から日の出山までの尾根道を、私たちは「日の出アルプス」と呼んでいます。一部以外ハイカーの姿は多くなく静けさを味わえます。

尾崎バス停で降り東平井橋を渡り直進、野鳥の森公園の黒い指導票①から、沢に沿って歩くとやがて水音は消えて斜面をジグザグに登り尾根に出ます。左側は野鳥の森右側は西多摩霊園で、霊園側の林床にはヤブコウジの濃い緑を敷き詰めた中に赤い実が目立ちます。少し行くと東屋とベンチが二つ有り、谷ノ入り展望台です。御岳山、大岳山、鶴脚山、臼杵山、富士山の頂上付近を望むことができ、晴れた朝はとても気持ち良い所です。朝早くベンチに座っていると右手から一匹の狐がトボトボと現れ様子を伺っていました。この辺りはコウヤボウキが多く白い花が目立ちます。又、画像のように桜の点々と咲く様子がきれいです。



そして間もなく公園の管理棟に下る分岐です。此の先にも展望台があり先程の風景に日の出山が加わります。278.5m

分岐を左へ進めば平成新道、直進が日の出アルプス尾根方面、右は菅生方面、左に進むと間もなくクマザサの中に標高 278.5m の二等三角点に出合います。尾根の右は細谷化工、花火など火薬類の他登山救難用の発煙筒も作っているそうです。

小さな起伏を繰り返して野鳥の森から遠ざかります。平坦な道を心地よく進むと、道は緩やかな登りとなり倉戸山に着きます。右に行けば草花丘陵の浅間岳方面、左は二ツ塚峠で、左右の車に注意しな

がら大正時代に完成した秋川街道を渡ります。滑りやすい急坂を登り、通信施設の間を通り悲話伝説の旧二ツ塚峠へ着きます。この峠には二つの塚があり、悲しい物語を綴った看板があります。二ツ塚峠と馬引沢峠はともに青梅と日の出を結ぶ峠道です。



東京たまエコセメント化施設に沿う道を行くと馬引沢峠を示す江戸時代の道標に出合います。更に西に少し進むと小さな馬頭観音が出現し、間もなく神明社と水口への分岐となります。分岐を右に向かいやや急な階段を上ると赤ボッコはまじかで、天気良ければ遠く日光や上越の山々まで見渡せ、緑の中に多摩川に掛かる奥多摩橋の赤い橋が目立ちます。戻って先へ進むと岩や根が出現し、天狗岩への登り下りは要注意です。ここでは普段見上げる樹木を岩の上から見下ろす感じで新緑紅葉の頃はお勧めです。

戻った先には、ピークらしくない要害山「昔は狼煙場だったとか」を過ぎ尾根の南側にちょっと踏み込むと、カヤト(※)だった斜面に太陽光発電のパネルが並んでいます。※山中でカヤが広範囲に茂る所

ここから左へ急な道を下ると都道の梅ヶ谷峠。車に注意して渡るとそこにはお地藏様。手を合わせてから右の林の急登を登ります。最近の伐採で明るくなった尾根は快適なハイキンを楽しめます。ここを抜けると林道で、左側にアルミ製の階段が目に入ります。階段を登りきるとすぐ通り矢尾根で、指導標

## ホームページ紹介

ガイド 金子 裕

通り進むと間もなく肝要峠に到着します。林道の木立の影の細い道が昇り尾根で、一部分急登に古いロープが垂れ下がっています。ここを慎重にピークを越えほっとしたところで一息いれます。

しばらく行くと右が梅の公園、左に梅ノ木峠の道標。その上が三室山〈634.7m〉で展望は良くありません。西に向かって進み、愛宕尾根への道を分け岩場を下り、巻き道に出ます。尾根道を選び、登りきったところが最近皆伐された「要害山」山頂。洒落た山名表示板があり、北へ張り出した尾根からは奥多摩や埼玉の山々の素晴らしい展望です。

小さな建物のあるピークを越え送電鉄塔の先で梅ノ木峠に出ます。少し行くと防衛庁通信施設があり、左を巻きます。日の出アルプスは尾根上を行き、起伏を繰り返し、筑瀬尾根を分けると高峰山に着きます。下って登り返せば竜の髭だ。いよいよ日の出アルプスの頂点、日の出山に近づく。木の根を踏み、きつい登りを経て、最後に急な石段を登り終えるとそこは大展望の日の出山（902.0m）の山頂。

東雲山荘に泊り夜景とご来光を楽しむと素敵な山旅になるでしょう。



### 【クイズ！】

春の山の明るい様子を表した、俳句で使われる春の季語

春の山は・・・山○○○

夏の山は・・・山○○○○

秋の山は・・・山○○○○

冬の山は・・・山○○○

※ヒント○には1文字入ります

日の出町ハイキングガイドの会ホームページは当会の紹介、イベント等の情報発信を目的に開設しました。トップページのレイアウトにこだわり見やすいわかりやすいホームページを目指しています。ホームページの内容は、日の出町ハイキングガイドの会の情報をすべて集約、発信できるよう努めています。メインの情報は、イベント情報と活動報告です。活動報告は、モニターツアーや講習会、月例研修会の内容です。参加出来なかった方にも情景が浮かぶ様、写真などでご覧頂けます。活動内容には過去の日の出町の会のハイキン



グや登山の記載があります。又、入会案内も閲覧する事ができます。さらに、幅広い世代や日の出町を含む近隣の方々にも日の出町ハイキングガイドの会の活動に興味や関心を持っていただくためにSNSの活用も行っております。この他 Twitter と Instagram にて会員の撮影による日の出町の景色や植物、イベントのお知らせなど近況の発信をしております。

町内の団体の皆様にもフォロワーになっていただき互いの情報を交換行っています。下の2次元コードから読者の皆様も各SNSにフォローいただき、ご意見ご感想をお寄せください。



ホームページ



Twitter



Instagram

## 友の会関連行事の紹介

ここでは、4月から7月にかけて日の出町ハイキングガイドの会が主催するハイキングと登山について紹介いたします。

ハイキングは概ね半日程度の里山歩きから始め月に一回程平日に予定しています。また、登山についてはハイキングよりも標高差や一回当たりの距離がやや長めで休日に設定してあります。

どちらも友の会会員の皆様から、先着順で受け付け、定員に達し次第締め切ります。早めにお申し込みください。8月以降の計画については、「日のハイ通信」夏号(7月頃発行予定)に掲載予定です。

### I. ハイキング(事前申し込み制)

4/27(木) 弁天山・小峰公園・今熊山方面

武蔵増戸駅前 8:40 集合

5/18(木) 八重山・能岳・虎丸山方面

上野原駅前 8:50 集合

6/8(木) 羽生通り(ヒメザゼンソウ)・羽生丘陵・日の

出団地・日の出農産物直売所

日の出折返場バス停 8:30 集合

7/6(木) 白岩の滝・麻生山・日の出山・つるつる温泉

武蔵五日市駅前 7:15 集合

### II. 登山(事前申し込み制)

4/23(日) 肝要峠・三室山・愛宕神社・二俣尾駅

武蔵五日市駅前 7:50 集合

5/21(日) 鳥沢駅・扇山・犬目・四方津駅

鳥沢駅 8:40 集合

6/18(日) 都民の森・三頭大滝・大沢山笹尾根方面

武蔵五日市駅前 7:50 集合

7/23(日) 軍道・光明山・馬頭刈山方面

武蔵五日市駅前 8:10 集合

### III. 申し込み後のキャンセル等について

申し込み締め切り後、催行予定の概ね一週間前迄には、申込者に対して参加の可否についてお知らせいたします。申し込み後、何らかの理由でやむを得ず参加出来なくなった場合には、その旨速やかに連絡願います。交通機関のダイヤ改正等により集合時刻の変更があれば、参加申込者に連絡いたします。

## ニツ塚ものがたり

「日の出町の昔ばなし」と「青梅のむかし話」

日の出町と青梅市は梅ヶ谷峠や馬引き沢峠、それにニツ塚峠で結ばれています。どれも古い峠道で鎌倉古道とよばれている峠です。

「ニツ塚」に関わる似たお話があります。今回2号では日の出町文化財保護委員会編の「ニツ塚ものがたり」を紹介します。

**玉**の内と青梅の境の山中に「ニツ塚」と

いう土盛の塚があります。このニツ塚には悲しいお話があります。

昔の昔、この山の麓の家に、母一人子一人が淋しく住んでいました。母はもともと体が弱く、子供は三才位だったので生活もあまりよくありませんでした。そうこうしている内に、お母さんの体はだんだん悪くなるばかりです。そして疲れ果てたお母さんはたびたび「早く死にたいようー、々々」と、口走るようになりましたが、近所の人々もどうすることもできません。

そのうちに病人は「断っての願いです。私をこのまま葬って下さい」と悲痛な声で近所の人に頼みました。近所の人も見兼ねて「それでは・・・」ということで相談の上、大きな籠を用意し、之に病人を入れ山に埋めることになりました。

この話を傍で聞いていた彼の女の子も、「お母さんが逝くなら、私も一緒に連れてって、、、」と鳴きながら訴えたので、止むを得ず二人は籠に入れられて、峠の尾根に埋められてしまいました。

それからのち、何百年も経ちますが不幸な二人連れこの塚には、誰となく掃除もされたり、土盛りをなお修したりして永く々々供養がされているそうです。

今このニツの塚には、大きな桜の木が生え、うつ蒼としています。そして近くの木の幹には

「古の 峠の道は 変われども  
塚となりてぞ、 今に残れり」

の誌札が淋しく掲げられてあります。